



士幌町産の新鮮野菜が並ぶコーナー



牛舎をモチーフにした「腰折れ屋根」がユニーク



カフェの名前とロゴには、士幌農業発展の礎を築いた功労者で、よつば乳業を創業した太田寛一氏を起用



シーベリーは「ビタミンE」と呼ばれるほど栄養価が高い果実

「まちの人たちの『またこの場所が良くなったね』のひと言が私たちを突き動かしてくれました。いずれは道の駅を中心にもちまちは人が流れる仕組みをつくり、さらに士幌町を活性化していきたいです」

堀田さんが夢想農園や「農と暮らしの委員会」で培ってきた農業への想い、そして道の駅でできた人とのつながりは、これからさらに大きくまちへ貢献することになるだろう。

「町民のための道の駅」をつくるためのチャレンジ

2017年、十勝エリアの北部に位置する士幌町にリニューアルオープンした「道の駅ピア21しほろ」。運営する株式会社 at LOCAL の代表を務めるのが、堀田悠希さんだ。

中札内村出身の堀田さんは、士幌町で「夢想農園」を営む夫・隆一さんと出会い結婚。その後は夢想農園で働く傍ら、十勝の若手女性農業ネットワーク団体「農と暮らしの委員会」を立ち上げ、マルシェの開催や地元食材を使ったレシピの広報などに取り組んできた。

「2015年のことでした。士幌町の

道の駅がリニューアルされるに当たり、町民懇話会に出席。話し合いに参加するうちに、観光客だけではなく町民が集いやすい士幌町らしさ満点の道の駅をつくりたいと考えたんです」

堀田さんは、道の駅運営業者の公募に手を挙げるために自ら会社を設立。農業との二足のわらじを履きながら、「町民のための道の駅づくり」に奮闘した。

「施設内には、しほろ牛と産直野菜を堪能できる食堂や、町特産のじゃがいもを使ったフライドポテト、こだわりのコーヒーが味わえるカフェを構えるなど、随所に士幌町らしさを取り入れる工夫を施しました」

町民の指摘を受け止め、一つひとつ真摯に対応

堀田さんが「貫して目指しているのは「日本一町民に必要とされる道の駅」。当初は「物販コーナーの商品が少なくてさみしい」など町民から多くの指摘を受けたが、それらの意見にも「ひとつひとつ真摯に対応した。」

「例えば、農協に協力してもらいビージャッキーなどを作ったり、町内の果樹園でつくられた果実『シーベリー』をかりんとうや饅頭にしたりと、士幌町の農畜産物を加工したオリジナル商品を開発・販売。また、士幌町内でとれた野菜を販売する野菜市も開き、売り場が賑やかになりました」

士幌町は、町の面積の6割が農用地という「農業のまち」。大規模経営の農家が多く、農家が直接消費者の反応を見る機会はまだ多くない。道の駅での販売は、農家と消費者をつなげる機会として、農家のやりがいにもつながっている。

× After Story ×

町民のために奔走する姿勢がじわじわと伝わり、今や道の駅は農家の井戸端会議や子育て世代の集いの場など、地元のコミュニティ空間としても愛されている。週末には藍染などのワークショップを開催したり、キッズコーナーに野菜の形のおもちゃや士幌町の魅力が詰まった五十音表「しほろあいうえおでかけ表」を掲示するなど、農業を身近に感じてもらう企画も好評だ。



士幌町の魅力満載の五十音表は、食堂のランチョンマットとしても使われている



藍染ワークショップでは、士幌町産の藍を使ってTシャツを染める

日本で一番、町民に愛される道の駅をつくる



堀田悠希さん(写真左奥)と株式会社 at LOCALのみなさん

道の駅ピア21しほろ
運営事業者
株式会社 at LOCAL
住所 士幌町字士幌東4線173
TEL 01564-5-5111
URL https://pia21shihoro.jp/